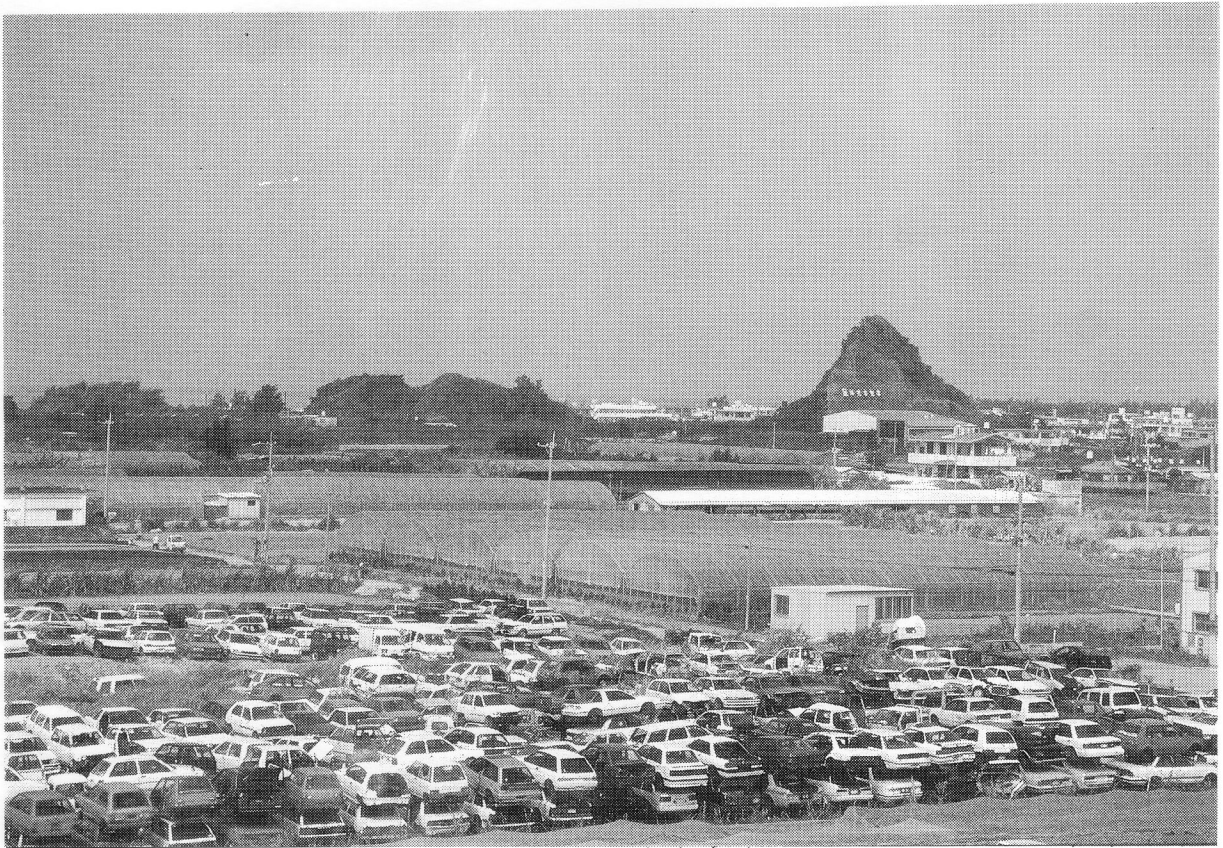


ジジムイ (珠数森)



ジジムイ

ジジムイは与根集落の東南東側に位置する標高約37mの小丘のことをいいます。

ジジムイ一帯は目崎茂和氏の著書『南島の地形』によると「今から6千年前にはまちがいなくこの一帯は浅海であり、沖合の干潟のイノーであった。しかし、クチャの丘陵地より、泥土が運ばれて堆積し、1～2千年前には泥湿地となった」と解説されています。

ジジムイは『琉球国由来記』、『琉球国旧記』にもその名が登場し、雨乞いの神事を行なう事が記されています。雨乞いの神事は、まず琉球国王の命によって豊見城グスクの城内に、雨をつかさどる神、龍王を迎え、満散の日にジジムイにいき、そこで保栄茂のノロが鉄鍋を頭上に載せて7回廻り、参拝者が水をかけて終わるといいます。

現在でもジジムイは古来より変わることのない聖域として大事にされています。

